

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895  
FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

### 株式会社の土台を考え作り直す 金田 信一郎 (作家・ジャーナリスト)

- 現在の会社法はアメリカ型の経営に盲従した感が否めない。2つの通説を信じ切っている。「会社は株主のもの」「株主価値最大化」だが、元早大法学部長の上村達男氏はこの2つの発想こそが、株式会社の「人間疎外」を生み出しているとみている。「人間のための仕組みの一つ一つが人間離れをした要素によって支配されている」。それは日本で盲従されている「株式会社教」への警鐘でもある。
- そして、こう言い切る。「会社は株主のものではない。株主が持っているのは、株券だけである」。そこにいる社員を、自分のモノのように好き勝手に扱っていいはずもない。「そこを経営者が勘違いしている。今の多くの会社には、人間の匂いがしない。カネの匂いばかりがプンプンする」。その結果、株を高速で売り買いして利益を上げることばかり考える投資家が幅を利かせる。
- そんな「銭ゲバ株主」を、長期投資の株主と同様に扱っていいのか？上村氏は喝破する。「そういう株主にとって『会社は株主のもの』という標語くらいありがたいイデオロギーはない。姿は『オレにカネをよこせ』という標語にほかならないからだ」。これは土台から作り直さなければならない。

(参考:「週刊東洋経済」2024年2月17日号)

## 経営者のための危機管理

### アジア出稼ぎ日本人

- 長引く経済停滞で企業が活力を失い、賃上の滞ったニッポン。稼ぎがいっこうに増えない国内の職場に見切りをつけて、自らの成長と成功を求めてアジアに飛び出す働き手が現れた。シンガポールに出て月収を2倍にした美容師もいれば、タイで入社1年目にして30万円近く稼ぐ若者もいる。為替の円安によって日本の賃金の魅力は低下し、日本企業は国内外の働き手によって選別される存在になる。
- 日本にとって働き手の流出は一見損失にも見える。若いIT(情報技術)エンジニアが次々と米国に渡ったインドはかつて「頭脳流出」と嘆かれ、彼らを裏切り者扱いする向きもあった。だが異国で技術と商才を磨き、インドに舞い戻る技術者の循環が生まれ、同国のスタートアップの隆盛を支える。海外で働く若者らを日本の成長戦略に生かすようなしたたかさが求められる。

(参考:「日経ビジネス」2024年2月5日号)

## 海外事情

### GAFAMからMATANAの時代(米国)

- 2024年の世界半導体市場は過去最高の5883億ドル(約87.5兆円)となる見通しだが、業界では「30年に1兆ドル(約149兆円)」という強気予想まで飛び出す異常事態となっている。旺盛な半導体需要をけん引する代表的企業が、米巨大IT企業のMATANAだ。これまで世界経済をリードしてきたGAFAMからフェイスブック(現メタ)が脱落し、新たにテスラとエヌピディアが加わった。
- いみじくも、6社全てが半導体の自前開発に着手しており、半導体が自社サービス・製品の性能を決める最重要部品であることを証明した格好だ。中でも成長著しいのが、GPU(画像処理装置)の設計を手掛ける半導体ファブレスメーカーのエヌピディアだ。2月12日に時価総額(約1.8兆ドル)でアマゾンを超えて世界4位に躍り出た。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2024年2月24日号)

## 古典に学ぶ

### 物事にはすべて原因がある

- 影は、元の形をそのままの姿で映し出します。こだまは、発せられた言葉通りの響きで返ってきます。そんな周知の事実を、空海があえて説くのはなぜでしょうか。
- 空海は、私たちの現実も、自身の行動をありのままに反映しているのだと教えています。仏教では、物事にはすべて原因があり、その原因によって縁が結ばれ、現実という結果が表われると考えます。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)